

《薬局サーベイランスコメント》

『第 51 週の推定患者数は 70 万人を上回った。今後 2 週にわたってインフルエンザの流行は横ばい傾向となり、その後再び患者数が増加して本格的な流行時期に入っていくと予想される』

薬 局 サ ー ベ イ ラ ン ス
(<http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanjyasukei/index.html>) によると、今シーズン（2019/2020 年シーズン）の 2019 年第 51 週（12 月 16 日～22 日）のインフルエンザの 1 週間当たりの推定患者数は約 737,000 となりました。前週の値（第 50 週；約 517,000）を更に大きく上回っており、また第 43 週以降 9 週間連続して増加が続いています（図 1）。休日明けの第 52 週の月曜日（12 月 23 日）の 1 日当たりの推定患者数は約 188,000 と今シーズンの最多（約 145,000）を更新していますが、第 52 週からは学校等の冬期休暇の時期に入るため、推定患者数の増加は鈍化し、横ばい傾向となる可能性があります。

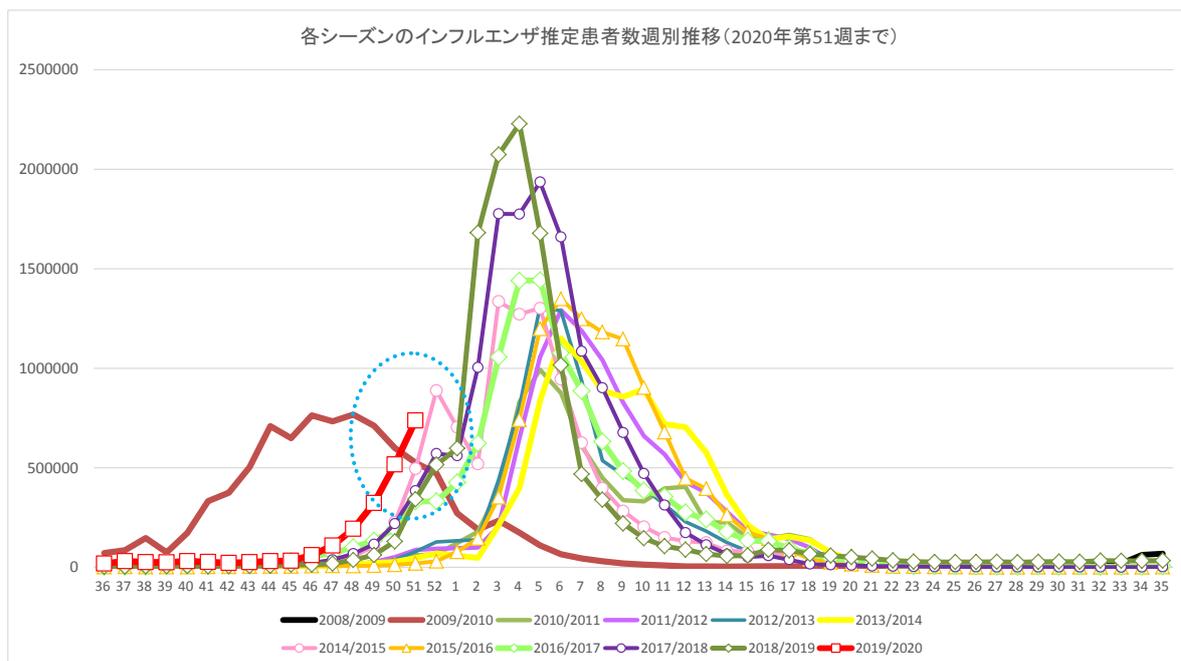


図 1. 過去 11 シーズンと今シーズン（2019/2020 年シーズン）の第 36～第 51 週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移

2019 年第 36 週から第 51 週までの累積の推定患者数は約 2,204,000 であり、2019 年 10 月 1 日現在の人口統計を元にした累積罹患率は 1.75%でした。年齢群別での累積罹患率は 5～9 歳 (9.75%)、10～14 歳 (6.73%)、0～4 歳 (4.50%)、15～19 歳 (1.78%)、

40～49 歳（1.74%）、30～39 歳（1.72%）、20～29 歳（1.02%）の順となっていて、14 歳以下が流行の中心である状態が続いています（図 2）。

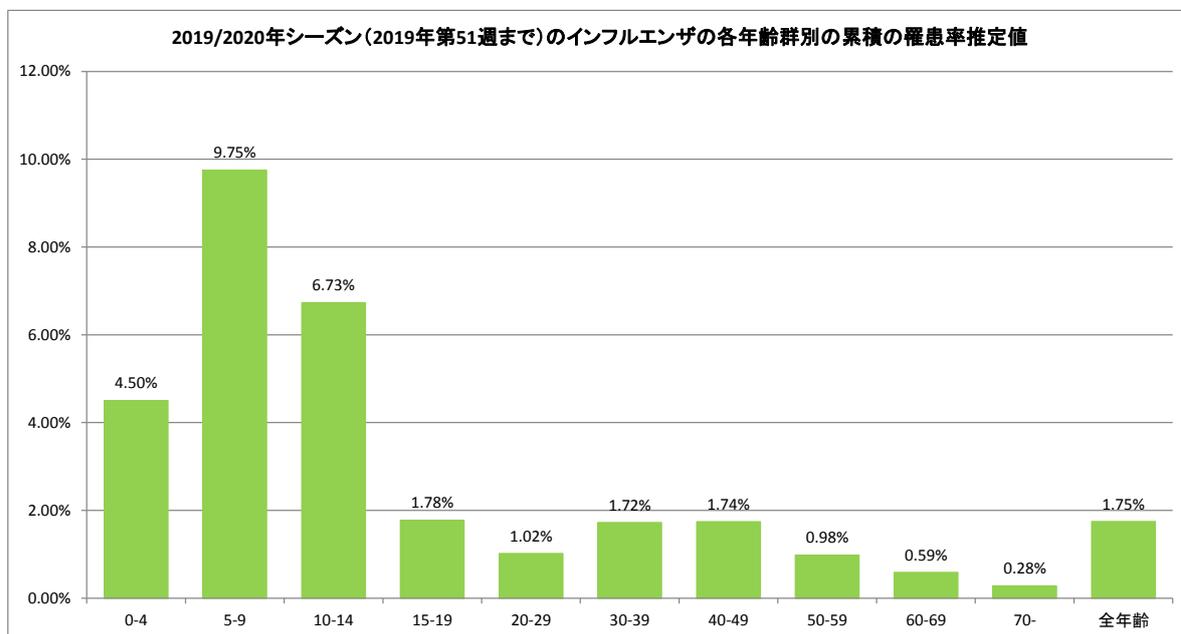


図 2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値(2018 年第 36～2018 年第 51 週、累積推定患者数=約 2,204,000)

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>) によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス(1,010 検体解析)は、A/H1pdm が 92.6%と多く、次いで A/H3 (A 香港) 亜型 4.2%、B 型 3.2%の順となっています。

第 51 週のインフルエンザの推定患者数は 70 万人を上回り、12 月としては大きな流行となっています。今後第 52 週、2020 年第 1 週とインフルエンザの流行は横ばい傾向となり、その後は再び患者数が増加して本格的な流行時期に入っていくことが予想されます。今後ともインフルエンザの患者発生状況には注意が必要です。

2019 年 12 月 24 日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則